

研究課題

上腕骨近位端・遠位端骨折の術後予後調査

研究の意義、目的

上腕骨近位端、遠位端骨折の手術治療は日常診療でしばしば行われていますが、術後の痛み・機能の評価を長期にわたり厳密に行い、大規模データ解析した研究は日本において過去にあまり見られません。その為、各手術法における関節可動域の術後回復経過や骨癒合時期、合併症の発生頻度等の違いは不明です。

今回の研究でそれらを解明すれば、術者にとって今後の術式選択・説明に有益であるだけでなく、患者さん側においても大変意義深いと考えました。

研究の方法

今回、大規模な解析を行うために、名古屋大学手の外科およびその関連病院の多施設共同臨床研究を計画しました。過去5年に上腕骨の近位端・遠位端骨折で手術治療を行った患者さんをデータベースに登録し、手術方法、骨癒合の有無と時期、外固定期間、術後の上肢機能評価票（Hand20）スコアや肩・肘の可動域、合併症（神経損傷、術後感染、骨片の壊死、インプラントの折損、骨折部再転位、偽関節、有症状性の変形治癒、CRPS、etc.）の発生有無等を調査し、各治療法間の成績を比較します。

Hand20は、名古屋大学大学院医学系研究科手の外科を中心にNPO法人ハンドフロンティアが新たに開発した「患者さん自身による上肢機能評価票」です。過去に我々は欧米を中心に広く用いられている既存の評価票であるDASHとその信頼性・妥当性を比較し、同等の信頼性、妥当性を示したことを2010年Journal of Bone and Joint Surgery British VolumeにDevelopment and validation of an illustrated questionnaire to evaluate disabilities of the upper limbとして報告しています。

本研究の患者さんで、参加を希望されない場合は下記にご連絡下さい。その他、ご質問などがございます場合も、遠慮なくご連絡下さい。

研究機関名

名古屋大学, 安城更生病院, 名古屋掖済会病院, 市立四日市病院, 静岡済生会総合病院, 江南厚生病院, 一宮市立市民病院

連絡先

名古屋大学医学部附属病院手の外科 西塚隆伸

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65

TEL 052-744-2957 FAX 052-744-2964